

提出締切：2010年5月20日（木）

2009年度採択 研究推進プログラム「基盤研究」 研究成果報告書

研究代表者	所属機関・職名： 氏名：	産業社会学部・教授 遠藤 保子
研究課題	舞踊と開発教育 モーションキャプチャを利用したアフリカの舞踊による教材開発	

I. 研究計画の概要

研究の計画について、概要を記入ください。

本研究は、科研費基盤研究B『モーションキャプチャを利用したアフリカの舞踊に関する総合的研究』（2008年度～5年間、代表者：遠藤保子）と相互補完的に行った。2009年度までに、アフリカの4カ国：ナイジェリア、ケニア、タンザニア、エチオピアの舞踊に関するモーションキャプチャを利用したデジタル記録が完了しているため、本研究においては、特にエチオピアの舞踊に焦点をあて、以下を行いながら映像教材を制作し、その指導案を検討した。

1. エチオピア、特にラリベラにおける子どもたちと舞踊と社会・文化に関するフィールドワーク
2. ラリベラにおける生活（子どもたちの生活）や舞踊に関する聞き取り調査及び映像撮影、映像教材制作、指導案作成
3. エチオピアの舞踊をマルチアングルで再現できるデータの制作

II. 研究成果の概要

研究成果について、概要を記入ください。

1 映像教材の制作根拠：次のとおりである。1. 日本におけるアフリカに対するイメージは、飢餓、旱魃、内戦等のマイナスイメージが強く、途上国に対する児童の正しい理解が妨げられているため、第3世界への偏見をもたせない工夫をし、マイナスイメージを助長する内容は避ける。2. 今日のアフリカは、都市化が進み、伝統的な社会が変化してきている。3. アフリカに対する支援のあり方で留意する点の1つは、女性差別をなくした人材育成である。4. 舞踊は、民族文化をシンボリックに表現し、マイナスイメージを伴わない等。

2 対象とする生徒：小学校高学年。その理由は、「地理意識の爆発核心期」ともいわれ、世界観と国土観の形成面で最も重要な時期であり、生涯にわたって大きな影響をもたらす、国際理解の基礎となる世界的な地域イメージや世界的な人権意識をも左右するからである。

3 研究成果：次のとおりである。1. 映像教材制作 2. 指導案 3. モーションキャプチャした舞踊。その詳細は、以下である。1の映像教材は、次の点に焦点をあてた。1・1. 人々の暮らし...暮らしとそこに息づいている舞踊、働く子ども、女の子の仕事(水汲み、料理：主食インジェラ、ブンナセレモニー等) 1・2. 学校の様子...女の子の補講、課外活動クラブ 1・3. 支援のあり方...植林、溜池、校舎建設、生きがい。2の指導案は、次の3点からなる。2・1 エチオピアを知る段階 2・2 エチオピアと日本のかかわりを知る段階 2・3 支援を考える段階。3のモーションキャプチャした舞踊は、来日したエチオピア国立舞踊団が、代表的な以下の6つの舞踊を抽出し、団員が踊ったものである。3・1 遊牧民の生活が反映されたアファル人の舞踊 3・2 楽しみのために踊られるウォロ人の舞踊 3・3 ジェスチャー等に特徴のあるソマリ人の舞踊 3・4 農作業を模倣したようなグラゲ人の舞踊 3・5 ブラックアフリカ的な要素があるコンソ人の舞踊 3・6 5と同じ要素があるウォライタ人の舞踊。